校長室だより
丹波市立進修小学校　2024.9.17

運動会を通して培う　「非認知能力」

非認知能力という言葉をよく聞きます。テストや IQ のような数値で図れる見える学力ではなく、目に見えない力です。「生きる土台となる力」「あと伸びする力」「生涯の学びを支える力」などと言われています。

シカゴ大学のジェームズ・ヘックマン氏は、「将来において、幸福度や収入、地位などに大きく影響するのは、IQ など数値で評価可能な「認知能力」よりも、数値化しにくい「非認知能力」である。」と言われています。

非認知能力とは、
・目標の達成：忍耐力・自己抑制・目標への情熱
・他者との協働：社交性・敬意・思いやり
・情動の制御：自尊心・楽観性・自信
であり、生きる力につながります。

今週21日実施する運動会の教育的価値は、子どもたちの健康増進・身体能力向上だけでなく、非認知能力向上の絶好のチャンスだと思っています。

例えば、表現では、難しい踊りや動きに挑戦しながら、覚えて踊りたいという目標を持つことで、忍耐力がついたり、達成できたことで自己肯定感が高まったりすることを目指します。

応援合戦では、みんなで協力し合って声を出したり、動きをあわせたりすることでチームワーク、楽しいと思える気持ちが育ちます。また、6年生はリーダーシップを発揮することで自信になります。

リレーや玉入れ、綱引きなどでもあきらめずに取り組む忍耐力や、負けても相手を応援する思いやりの気持ちや感情のコントロールも身につけることができます。

また、練習の後には振り返りをして、よかったこと、友だちのがんばり、次がんばりたいことなどを発表しています。こうすることで自己調整力がつき、自分自身を知り、自分のめあてを持ち、具体的に何をがんばるのかが見えてきます。これは、学習にもつながってきます。

運動会に対する思いは、一人ひとり違いますが、練習の過程で、全力で取り組むことで自分自身を認めたり、

友だちと一緒に頑張ることでお互いを認め合ったりしながら、心である非認知能力が育っていうと感じています。

子どもたちは、暑い中本当によくがんばっています。先生の話を真剣に聞いて、一生懸命に取り組む様子、友だちが走っている姿に大きな声で応援する子、毎日子どもたちが成長していくのが分かります。

練習の様子をホームページにもアップしていますのでご覧ください。

お家でも、お子様のがんばりをいっぱい褒めてあげてください。そして、本番は結果ではなく、ここまでがんばったことをたくさん認めてください。お家の方から褒められることが子どもたちにとって最高のご褒美だと思います。

保護者・地域の皆様のご参観、ご声援をよろしくお願いします。